

## 2022年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

春めく暑い日差しのもと、鈴鹿サンデーロードレース第2戦が開催。  
アドバンス生の実戦トレーニングがいよいよ始動!!

4月10日(日)公式予選 9:05~9:15 ◎天候・路面:Fine/Dry

#7松岡絢音 予選7位 56秒095 #12豊田哲慎 予選6位 56秒059  
#21岡田陽大 予選10位 56秒349 #44高平理智 予選8位 56秒129

2022年鈴鹿サンデーロードレース選手権のJ-GP3クラスがいよいよ開幕。春の強い日差しの下、今年HRS-Motoアドバンス生にステップアップしたルーキーライダー、ナショナルライセンスの4名が東コースでの実戦に挑む。

今年度はスクール名称の変更に伴い、チーム名も“SRSコチラレーシング”から“Team HRS”へ。気持ちを新たにレースへ向かう。今大会に挑む4名はNSF250Rでの走行が未経験者で、走行経験も豊田哲慎と松岡絢音が国際レーシングコース初、とチャレンジ項目が多いレースとなる。4月10日(日)午前9時5分、暑い日差しのもと全21台が争う本クラスへ4名の生徒が戦いを挑んだ。

岡田は序盤より好タイムの兆しを見せていたが、3周目の逆バンクで痛恨の転倒。早々に予選を終えてしまう。残る豊田、松岡、高平もまだ慣れないマシンとコースと格闘しながらもタイムを削っていく。松岡は単独走行でタイムをなかなか削る事ができず苦しんでいたが、豊田に抜かれた事で目標が明確になり、自己ベストを更新する事ができた。高平は自分の納得する走りができず苦しみの走行。結果、豊田が56秒059で6位、松岡が56秒095で7位、高平が56秒129で8位、岡田が56秒349で10位という結果となった。

4月10日(日)決勝レース(東コース12周) ◎天候・路面:Fine/Dry

#7松岡絢音 総合9位/ナショナル5位/NSFチャレンジ6位  
#12豊田哲慎 総合6位/ナショナル3位/NSFチャレンジ4位  
#21岡田陽大 総合5位/ナショナル2位/NSFチャレンジ3位  
#44高平理智 総合8位/ナショナル4位/NSFチャレンジ5位

気温23度と午前よりも日差しが強くなる中、12時45分に21台による決勝レースがスタート。3列目からスタートした松岡が序盤で5番手へ浮上すると、そこに豊田、岡田、高平も続き激しい5番手争いが始まる。その後、豊田が松岡をパスし5番手へ浮上。そこへ松岡、岡田、高平を含んだ集団が形成され激しい争いが続いた。徐々に10台近い集団が形成され、何度も順位を入れ替えながらの5番手争いが続く。迎えた4周目、ライバル同士が接触するほどの接近戦を見せる5番手争いとなる。幸い接触は免れたが、岡田は7番手から10番手まで大幅に順位を下げてしまった。

それでも残り2周となったホームストレートで豊田・松岡・岡田が3ワイドとなり1コーナーへ侵入する激しいバトルを展開。5位争いの中でHRS勢が健闘を見せる。結果、岡田が集団のトップでチェッカーを受け、ナショナルクラス2位(総合5位)、豊田がナショナルクラス3位(総合6位)とクラス表彰台2位と3位を獲得。高平がこれに続きナショナルクラス4位(総合8位)、松岡がナショナルクラス5位(総合9位)と無事全員が5位争いの中でチェッカーを受け、本大会を終えた。



2022年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選10位/決勝総合5位/ナショナル2位/NSF  
チャレンジ3位**

**岡田陽大(おかだひなた) 14歳**

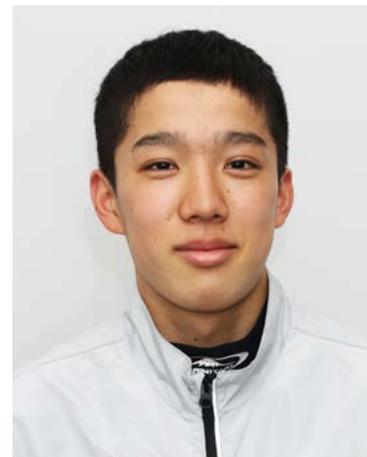
『今回は転倒せず冷静に走りきって戻ってくることを目標にレースに臨みました。東コースは以前、他の車種では走ったことがありますが、NSF250Rで走るのは初めて、更にこのチームで走るのも初めてという事もあり、予選は緊張と焦りから転倒してしまいました。もともと東コースに関しては、自分の中では1・2コーナーが得意だと感じていて、もっとタイムを伸ばしたかったので残念です。決勝では、予選での転倒によって車体に問題が出てしまい、慣れるのに時間はかかってしまいましたが、ナショナルクラス2位という成績を残せた事は良かったと思っています。今回一番のレースとしての反省点は、予選で転倒したことによって車体に影響が出てしまう状況を作ってしまったので、まずは転倒しないようにレースを進めていきたいです。次戦は総合3位以内を目標に頑張ります』



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選6位/決勝総合6位/ナショナル3位/NSF  
チャレンジ4位**

**豊田哲慎(とよだてっしん) 15歳**

『前回の走行より、ベストタイムが走る度に更新でき、良いイメージを持って今週末のレースウィークを迎える事ができました。予選は速いライダーに付いてタイムアップを狙いましたが、前が詰まってしまう作戦通りには行きませんでした。必死に食らいついていった結果、クリアラップが取れて自己ベストも更新して予選を終える事ができました。決勝はスタートを失敗してしまい、多くのライダーに抜かれてしまいました。予選順位まで挽回したのですが、毎周1コーナーでのバトルを繰り返した結果、前の集団に置いていかれてしまい、追いつく事ができないままチェッカーとなりました。レースの結果は勿論悔しいのですが、トップに追いつけなかったとはいえ、最低でもセカンドグループのトップでゴールしなければならなかったのですが、一周目で離された事が一番悔しいです。次戦はフルコースのレースとなりますが、そもそも西コースが得意で東コースには苦手意識がありました。しかし、今回のウィークで苦手意識を克服できたと思っています。次戦は総合優勝を目指して頑張ります』



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選8位/決勝総合8位/ナショナル4位/NSF  
チャレンジ5位**

**高平理智(たかひらりいち) 13歳**

『予選でのタイムは、自分が思っていたより伸びず、納得ができる結果ではありませんでした。決勝では、スタート直後の1コーナーに入る時に前が混み合っていて、少しアクセルを戻してしまったり、その後も抜く時にミスをしてオーバーランしてしまったりして、うまく順位を上げていくことができなかったです。5位争いの集団にいたので、もう少し前に出たかったのですが、思うように前に出られず、今回のレースは30点ぐらいの出来かなと感じています。でもスタートはうまく決まったので、それは自信になりました。今回のレースで、自分が前のマシンをうまく抜けないことが自分の弱点だと解ったので、これから改善していきたいと思っています』



2022年鈴鹿サンデーロードレース第2戦 参戦報告書

ナショナルJ-GP3クラス: 予選7位/決勝総合9位/ナショナル5位/NSF  
チャレンジ6位

松岡 絢音(まつおか じゅのん) 15歳

『自分はこのような大きなレースに参戦するのが初めてでした。そしてすぐ緊張してしまう性格なので、今日のレースは落ち着いて転倒せずに完走することが目標でした。予選は、単独ではタイムを出せなかったのですが、豊田選手に抜かれた後、彼に引っ張ってもらって自己ベストを更新することができたので良かったかなと感じています。その後の決勝でもスタートがうまく決まり、1周目で5番手になることができました。しかしそのすぐ後トップから離されてしまった事で焦ってしまい、しばらく自分の走りができなかったのですが、中盤には自分の走りを取り戻すことができ、豊田選手とのバトルも落ち着いてレースをすることができたので、初めてのレースにしてはうまくいったと自分では思っています。今回、ラストラップで3台に抜かれてしまいチェッカーとなってしまったので、次戦では全体3位以内に入る事を目標に頑張ります』



岡田 忠之 Principal

『今年のアドバンス生は4人ともNSF250Rは未経験者です。走行経験としては、豊田と松岡は国際レーシングコースが初めて、高平、岡田は市販車での走行経験がある生徒です。4名ともバイクをコントロールする技術はあります。しかし、国際レーシングコースではスピード領域が上がり、またレーサーという剛性の高いフレームのバイクに乗るのが初めてなので、まだ戸惑っている部分があるように思います。レーサーというのは乗るのが非常に難しい、ある程度高い荷重を人間が与えていかないとイケない。まだまだ経験不足なところがある。そんな中で、岡田と松岡は転倒が1回ずつありました。松岡は性格がおっとり型でレースに帳尻は合いましたが、転倒後恐怖心が中々抜けていませんでした。チェッカー時には自己ベストも更新してくれたので良かったです。岡田は練習から良いときと悪いときの波が激しい。そして、生徒4人共に、まだまだ心を開いてくれない部分があると感じています。自立心、親離れ、子離れによって本当に自分がやりたいスポーツなのかを考え、ライダーである前に人間の資質という教育をする事が必要です。そこからプロライダーになる道が、初めてできると思います。今はバイクに乗るのが楽しくて、コースに慣れ始めたという段階です。コメントが得意ではない子もいたり、積極的に話をする子もいたり、だけどそれが間違っていたりすることもある。そこを修正して正しいルートに導きたいと考えています。生徒は皆、レースに対する姿勢は真面目です。しかし、センスで乗っている部分が強く再現性が低いので、経験値を積ませる事も必要ですね。シーズンは長いようであつという間。段階を踏んで、少しでも世界に通用するライダーに育てるために、上田講師、山本講師と共に叱咤激励のバランスを取りながら一年かけて取り組んでいきます。生徒の伸びしろが本当に楽しみです。次戦はフルコースでの開催ですので、よりいっそうタイム差と実力が出やすくなります。現段階ではTOPは難しいと思いますがレースを想定したトレーニングを行い、プレッシャーを与えてしっかりとスタッフと協力して、生徒を育てていきます。今大会は、とにかくレースで怪我無く、全員が完走出来た事が一番良かったと考えています』

